

縄文時代中期の石斧づくりのムラ

浦山寺蔵遺跡

【土器編 1】



2011年3月

富山県埋蔵文化財センター

 富山県

目 次

縄文時代中期の石斧づくりのムラ 浦山寺蔵遺跡……………	1
主な出土遺物……………	2
縄文中期の土器……………	3
新崎式土器・天神山式土器・古府式土器……………	3
いろいろな形の土器……………	4
いろいろな特徴の土器……………	4
新崎式土器 深鉢……………	5
天神山式土器 深鉢・台付深鉢……………	5
深鉢・波状口縁深鉢……………	7
新道式系土器・大木式系土器……………	8
天神山式土器 有孔鏝付土器……………	8
古府式土器……………	8
天神山式土器 深鉢……………	8
小形土器……………	10
串田新式土器・気屋式土器……………	11
天神山式土器 浅鉢・小形土器……………	11
発掘作業のようすや遺物の出土状況……………	13

※ 土器写真の縮尺は統一してありません。



動物意匠のある台付深鉢



台付深鉢



浦山寺蔵遺跡出土の縄文時代中期中葉の土器



新崎式土器～天神山式土器



天神山式土器



天神山式土器～古府式土器



浅鉢

縄文時代中期の石斧づくりのムラ うらやまてらぞういせき 浦山寺蔵遺跡

浦山寺蔵遺跡は、黒部市（旧宇奈月町）浦山字水解・寺沢・越割の標高125～140mの黒部川左岸の河岸段丘の奥まった所に位置します。その東側には、丘陵を開析して流れる寺蔵谷川が黒部川に向かい北流しており、段丘上に寺蔵谷川が作り出した扇状地形の扇頂部に遺跡はあります。

昭和51年には場整備事業に先がけて約750㎡の発掘調査が実施されました。その結果、縄文時代中期前葉から後期前葉（約4,500～4,000年前）にかけての集落遺跡と確認されました。調査した場所は、大きく3地点に分かれています。A地点は中期前葉から中葉、小さな谷を挟んだ西側のB地点は中期中葉から後期、C地点は中期前葉を主体としています。中でも注目されたのはA地点からB地点に続く谷の落ち際の土器捨場（土器だまり）から縄文時代中期の天神山式土器や摩製石斧未成品が大量に見つかったことでした。また、集落は、扇状地形の端部を中心に作られ、B地点では、中葉から後葉にかけての遺構が重複して見つかっています。調査区全体では、たてあなじゅうきょ 竪穴住居15棟（石組いしぐみ 炉5・じしやうろ 地床炉3・はりゆか 貼床1を含む）、りっせき 穴57か所以上と、立石5か所、埋め甕・伏せ甕（幼児などの埋葬施設）が各1か所確認されています。また、竪穴住居は中葉から後葉のもので、調査面積に比べて多くの遺構が重複していることや大量の遺物が見つかることから、大規模な集落があると考えられました。



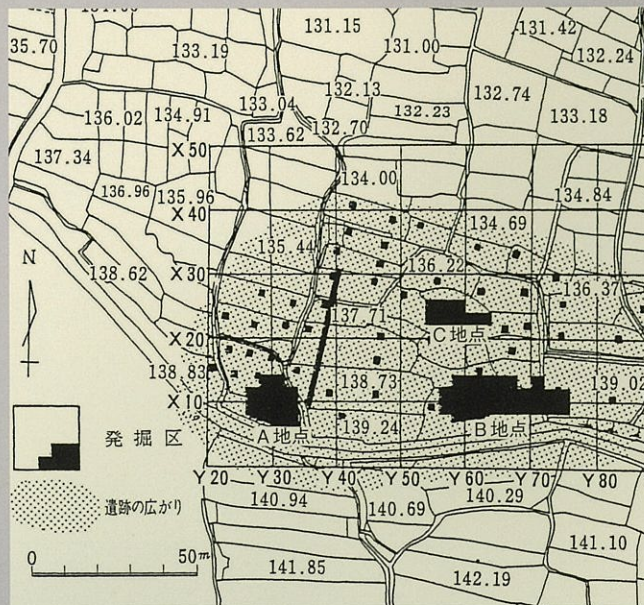
遺跡の位置



遺跡遠景（南から）



B地点作業風景（南から）



地形と調査区

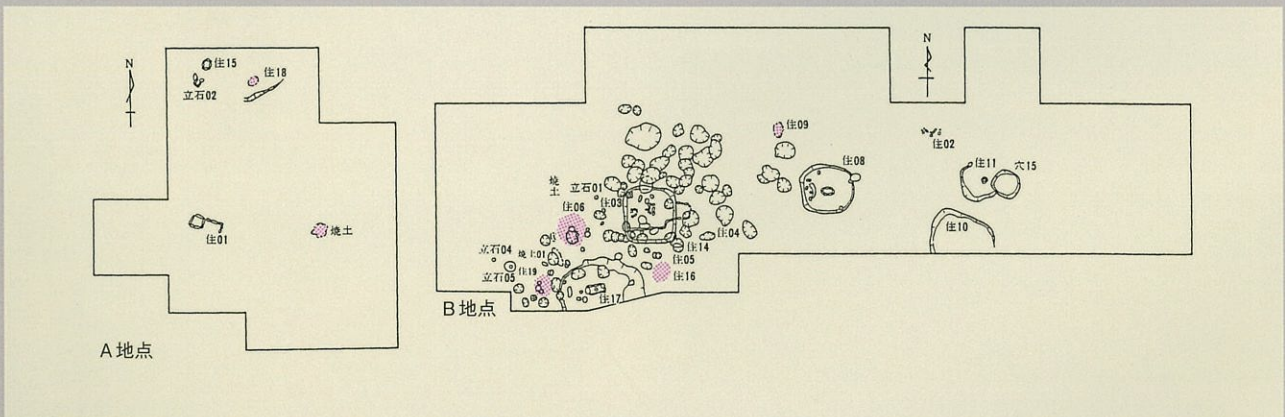
主な出土遺物 遺物には、中期前葉から後期初めにかけての大量の土器（深鉢・浅鉢・小形土器・有孔鍔付土器・器台・釣手土器）や土製品（土偶・滑車形耳飾・三角形板状土器片加工品・円板形土器片加工品）、石器（磨製石斧・打製石斧・石鏃・石匙・すりいし・磨石・たたき石・凹石・石皿・石錘・擦切具・砥石・石棒・石冠・玉類・玉未成品）があります。また、石斧未成品には黒部川の川原から採集したと考えられる蛇紋岩を使用し、製作工程がわかるものがあります。



A地点 全景（東から）



A地点 全景（北から）



調査区 遺構配置図



A地点 第15号竅穴住居・立石02



A地点 遺物出土状況

縄文時代中期の土器

新崎式土器 はんさいちっかん つめがたもん れんげもん こうしじょうもん 半截竹管文上の爪形文や花卉状の蓮華文・格子状文などを特徴とした土器で、口縁部には「入り」字状や半円形の突起が付けられます。また、縄文を器面全体に付ける土器では、口縁部に縄をそのまま押し付けて文様らくじょうたいあつこんもん（絡条帯圧痕文）とする例（6）があります。

天神山式土器 てんじんやましきどき 北陸を中心に生まれた土器型式で、口縁部や胴部に半截竹管文や半隆起線はんりゅうきせんにより作り出される渦巻き文様を特徴としています。また、富山県東部に位置する寺蔵遺跡では、口縁部と胴部の文様帯が隆帯などで上下二つに分けられる例が多くあります。時期が新しくなると渦巻き文が横「S」字状になるのも特徴のひとつです。この他、土器の口縁部に1か所だけ文様が付けられる10～12や胴部下半がすぼまり、円筒状となる器形の土器8・9・13～15が見られます。このような特徴は、関東地方や甲信地方の影響と考えられます。また、典型的な火焰型土器かえんがたどきはありませんが、影響を受けたと考えられるものが見られます。

古府式土器 こふしきどき 天神山式の文様や土器の形は変化しながら残りますが、渦巻き文様は横「S」字状となり半隆帯上の爪



A地点 遺物出土状況



A地点 遺物出土状況



B地点 全景（西から）

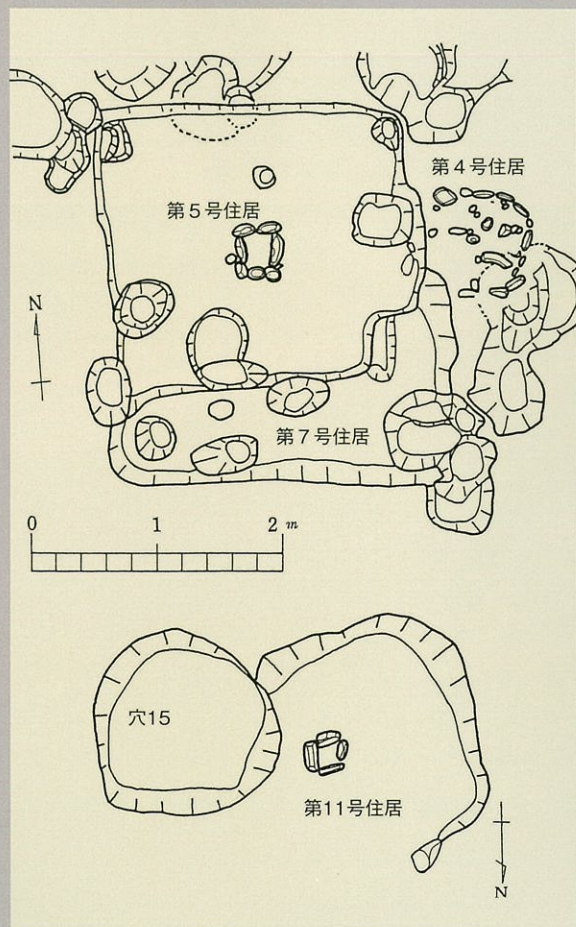
形文はヘラやクシ状具によるキザミに変わります (40~43・82)。また、半截竹管文は幅が広くなったり、沈線文に変化します。そのほか、串田新式 (85)・気屋式 (86) が各1点あります。

いろいろな形の土器 土器には、深鉢 (煮炊きに使う)、浅鉢 (盛り付けに使う)、有孔罎付土器 (酒つくりの容器や皮を張って太鼓とした説がある) があります。深鉢は、波状口縁や平口縁があり、口縁端部が「く」の字状に折れるものとそのまま直線的に開くものがあります。文様は渦巻状の半隆帯を中心に半截竹管文を器面全体に施すダイナミックなものです。また、口縁部や文様の区切り部分にはいろいろな形の突起が付けられています。渦巻き文様には動物 (蛇などの爬虫類) を模った文様がつけられる例 (19) があります。また、波状口縁のものは波頂部の文様が特徴的です。

浅鉢は大きく皿状に開き、「く」の字に口縁部が折れるものと大きな碗状となる形があります。文様はシンプルで口縁部に沈線による格子状文や円や半円状の貼り付け隆帯による文様が施されます。また、大型品が多く作られ、口縁部に玉抱き三又文が付けられることが特徴です。また、浅鉢83や深鉢18・19のように台が付く例が他地域に比べ多く見られます。

有孔罎付土器38・39・61は胴が張った球状の形で、穴が空けられた口縁と罎状の隆帯が付きます。文様は、動物を模った渦巻き文や大きな突起など他の土器とはやや異なったものがあります。また、赤彩されるものが多くあります。煮炊きに使用されることはほとんどなく、特別な容器と考えられています。

いろいろな特徴の土器 楕円形や波状の半隆帯に沿って細かい三角のキザミを施す土器35・36は信州の新道式の影響を受けた文様です。また、口縁部に大きな突起が付けられ、縄文地に渦巻き文が施される東北地方の大木式の影響を受けた土器37も見られます。そのほかに関東や甲信地方の勝坂式や曾利式の影響を受けたものがあります。他地域との関係を示す貴重な例です。また、境A遺跡出土品とよく似た渦巻き文様の土器32があります。



竪穴住居平面図 (1/60)



第3・5・8号竪穴住居周辺 (南から)



第11号竪穴住居・穴15 (北から)

新崎式土器 深鉢 / 天神山式土器 深鉢



1



2



3

新崎式土器 深鉢



4



5



6



7



8



9

天神山式土器 深鉢



10



11



12

天神山式土器 深鉢・台付深鉢



台付深鉢



天神山式土器 深鉢・波状口縁深鉢



波状口縁深鉢

新道式系土器 / 大木式系土器 / 天神山式土器 有孔罍付土器 / 古府式土器 / 天神山式土器 深鉢



新道式系土器



大木式系土器



有孔罍付土器



古府式土器



天神山式土器 深鉢



天神山式土器 深鉢



天神山式土器 深鉢・小形土器



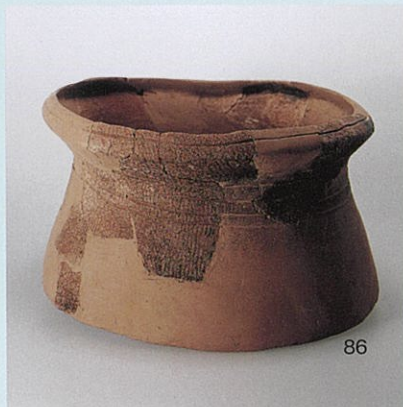
小形土器



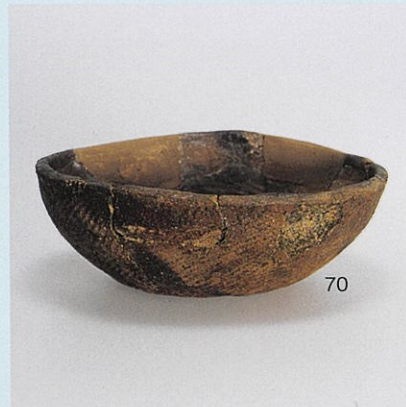
串田新式土器 / 気屋式土器 / 天神山式土器 浅鉢



串田新式土器



気屋式土器



浅鉢



天神山式土器 浅鉢



天神山式土器 浅鉢



79



80

浅鉢



81



82



83



84



小形土器



浦山小学校児童の遺跡見学（昭和51年）



立石01（北から）



第3・5・8号竪穴住居周辺（南から）



A地点 遺物出土状況



土器出土状況（写真14）



土器出土状況（写真74）



土器出土状況（写真11）



寺蔵谷から見た黒部平野
矢印が遺跡

縄文時代中期の石斧づくりのムラ
浦山寺蔵遺跡【土器編1】

発行日 平成23(2011)年3月25日

編集・発行 富山県埋蔵文化財センター

〒930-0115

富山市茶屋町206番3号

TEL 076-434-2814

FAX 076-434-2859

印刷 北日本印刷株式会社

このパンフレットは埋蔵文化財保存活用整備事業の国庫補助金をうけて作成しました。